

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
3	川崎市立川中島中学校	松崎 宏行

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
「知・徳・体・意」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 ①正しい判断力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人 ②豊かな心を持ち、思いやりのある明るい人 ③健全な心を持ち、進んで行動できる人 ④責任感を持ち、忍耐強く物事をやり遂げる人	①「授業力の向上」 ②「豊かな心の育成」 ③「健康・安全教育の推進」 ④「地域に開かれた学校づくりの推進」	①確かな学びの充実 ②「生きる力」の育成と人権尊重教育の推進 ③信頼関係の確立 ④豊かな人間関係を育む教育の推進 ⑤健やかな体の育成と健康安全教育の充実 ⑥開かれた学校の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 各教科における基礎・基本の定着と指導法の工夫・改善	・授業のルールについて、全教員が共通課題としての認識を持ち、どのクラスでもどの授業でも同じように取り組んだ。 ・話を聞く姿勢が整うのを待つこと、時間がかかるときは適切な言葉をかけることで、聞く姿勢の育成を目指した。 ・生徒の興味や関心を引き出すような授業を展開するために、教科打合せで検討した。	・授業におけるルールについて、教員間の差が出ないように学年打合せや教科打合せの中で共通理解を図った。 ・授業だけでなく、集会等の集団においても「聞く姿勢」が大切であることを生徒に伝え、その育成に全職員で取り組んだ。 ・生徒の学習意欲を高める工夫については、教科内に任せるのではなく、学校全体としての取り組み必要がある。	・授業ルール等についても共通理解をもつために継続した取り組みをする。 ・全ての教育活動で、生徒の「話を聞く姿勢」を育む取り組みを継続する。 ・初任者が校内授業研究会を行ったように、経験がある教員も授業を公開して、生徒の学習意欲を高める工夫を学校全体として考えていく。
2 基本的な生活習慣の確立	・学校生活にふさわしい身なりや言動について、会議等を利用して全教職員で共通認識を図り同じ指導を粘り強く継続的に行った。 ・問題行動を起こす生徒にも、時間をかけて気持を開き出し、背景を喋らせることで、原因を明らかにして解決できるように支援した。	・身なりや言動について、時間をかけて粘り強く継続的な指導を行った。それによって、多くの生徒がルールを守って学校生活を送ろうという意識を持つようになった。 ・コロナ感染症の影響で、本校の大切な活動になっているPTAや地域教育会議と連携した朝の挨拶運動を実施することができなかった。	・現在の取り組みを粘り強く継続する。また、生徒会活動や学級指導をとおして、基本的な生活習慣を身に付けられるような啓発も継続する。 ・コロナ感染症が収束して、朝の挨拶運動が再開できるようになった時には、多くの生徒に参加を促す。
3 生徒支援体制の構築	・問題行動に関して教職員の情報交換を密に行い、指導と支援を行った。また、保護者への連絡は丁寧に行い、家庭と学校が協力して問題を解決していけるような体制の構築に努めた。 ・不登校傾向生徒を含めた支援を必要とする生徒の状況を多くの教員で把握し、保護者や関係機関の協力を得て支援を行った。 ・相談活動やスクールカウンセラーとの情報交換で出てきた生徒の声を教員で共有し、多くの教員で生徒を支援した。 ・関係機関と度々連絡を取り、相談を重ね、生徒と家庭の支援体制の構築に取り組んだ。	・教職員間の素早く丁寧な情報の共有と連携で生徒に適切な指導を行うことができた。また、家庭訪問や面談を繰り返し、保護者とも連携して問題の解決を図った。 ・放課後に登校させることや家庭訪問をする等で生徒を支援する体制づくりに努めた。 ・教育相談の期間だけでなく休み時間や放課後に生徒から話を聞くことや、スクールカウンセラーとの情報交換をとおして、保護者の協力を得ながら複数の教員で支援を行った。 ・関係機関と連携し、生徒の状況把握することをおして支援体制の構築に取り組んだ。	・教職員間で素早く丁寧に情報を共有化すること、家庭訪問や面談等をとおして保護者と連携を図ることは、今後も確実にやっていく。 ・家庭訪問や放課後に登校させること、取出し授業等の個別支援は、生徒と保護者の気持ちを尊重しながら継続していきたい。 ・教育相談の期間をだけでなく、生徒から直接話を聞く機会を大切にしたい。また、スクールカウンセラーや保護者との連携も継続して行っていく。 ・関係機関との連携は、状況把握の把握と支援体制の構築のためにたいへん重要になっている。引き続き、大切にしていきたい。

4	健康・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育を実施し、自分の健康に関心をもつ生徒の育成に努めた。 養護教諭が発行する保健だよりを用いて、家庭と連携して生活習慣の改善に努めた。 落ち着いて学校生活を送ることができる生徒の育成のために、教室やその他の場所の環境整備を生徒と共にやった。 食事のルールやマナー等のクラスの課題について、給食委員会で解決策を考えさせ、クラスに浸透を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育直後や保健だより配布直後は生徒の意識は高いが、授業内容を定着させることについては難しい。 複数の教員で毎時間の巡回を行い、校内環境の整備や授業中の生徒観察に取り組んだ。 整備委員の活動として、廊下と階段の清掃を行った。 食事中や配膳中、片づけ時のルールやマナーについても生徒が考え、クラスや学年でルールやマナーの改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを利用して、生徒に考えさせ、自分の健康について関心をもつ生徒の育成に努める。 学級指導や委員会活動等、教職員の指導があつて丁寧に掃除する生徒が増えた。学習する環境、生活する環境を自ら整えようとする生徒の育成に努める。 給食の準備や片づけ、給食中のマナーについて、担任の指導の差をなくすように全教員で共通理解を図る。
5	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の影響で、これまで実施してきた保護司の見守り活動(校舎内巡回)、保護者の見守り活動(2校時に校舎内巡回)を実施することができなかった。 見守り活動以外の地域や保護者の連携についても、実施できなかった。 学校ホームページやメール配信を利用して、今後の予定、学校の取り組みについて情報発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の落ち着いた学校生活が継続するように見守り活動を早く再開したい。 地域の方が講師となって生徒の豊かな体験の場となる「ふれあい体験講座」も実施できなかった。 学校ホームページやメール配信を利用して、休業期間中でも保護者に予定等の連絡ができた。また、例年どおりPTA広報誌が発行されたことで、生徒の活動や学校の様子を保護者に知らせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が落ち着いて学校生活を送ることができるように、保護司、地域の方、保護者の協力を求めていく。 学校ホームページやメール配信を利用して、家庭、地域へ学校の様子を発信し、教育活動に協力いただけるように努める。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> 対象学年の保護者だけの参加出席、観覧になったが、入学式、体育祭、卒業式などの行事が実施され、保護者と生徒にとって有り難かった。(他市に居住する会社の同僚から、全ての学校行事が中止になり写真や思い出に残るものが何も無いと聞いています。) 新型コロナウイルスの収束が見通せないのも、これからは出来る活動を見つけて生徒にとって思い出に残る中学校生活を送ってもらいたい。 緊急事態宣言の発令で仕方ないと思いますが、自然教室の中止など直前の連絡で困惑した。また、購入した物品が不要になり、無駄になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域が期待する本校の教育活動について、誠実に応えていけるようにこれまでの取り組みを継続し向上を図る。 生徒に基礎学力を身に付けさせる魅力ある授業を目指すことは大切である。それと同時に生徒へ様々な指導を授業で行うことも大切である。引き続き、そのような授業向上に取り組む。 「時間」、「挨拶」、「掃除」を生徒に意識づける活動が定着してきた。引き続き、生徒主体で活動させたい。 本校の教育活動について、授業内容、部活動の指導のあり方、教員の言動等について、保護者が注目している。毎年実施しているが、研修をとおして資質向上に取り組むと共に、学校の様子を分かるように発信することをとおして、保護者に信頼され理解される教育活動を展開していく。